

授業科目 生理光学実習

【担当教員名】 魚里 博		対象学年	2	対象学科	視機	
		開講時期	後期	必修選択	必修	
		単位数	1	時間数	30	
【ディプロマポリシーとの関連性】						
知識・理解		思考・判断		態度		
○		○		◎		
【概要・一般目標：GIO】 生理光学で学習した基礎知識（屈折・調節検査法と矯正法等）を、より実践的な知識とするために、各検査の流れ、機器の操作法、検査結果の評価と影響する因子等について詳細な実習を行う。検査理論を確実なものとし、実際の検査の流れ、検査データに影響する因子について理解することを目標とする。 少人数のグループに分けローテーションで実施する。						
【学習目標・行動目標：SBO】 講義での内容を実地に習得させる。検査機器の原理や取り扱い法を習得し、正確な検査成績を得られるよう反復訓練する。主に、視力・屈折・調節の検査を中心に学習する。						
回数	授業計画・学習の主題				SBO 番号	学習方法・学習課題 備考・担当教員
1	検眼レンズの説明と取り扱い					実習 魚里ほか
2	視力測定、裸眼視力と矯正視力の測定、遠見・近見視力、小児視力					実習 魚里ほか
3	自覚屈折検査、レンズ交換法、球面度数決定、クロスシリンダー、2色テスト、雲霧法					実習 魚里ほか
4	他覚屈折検査、レフラクトメトリー、オートレフケラトメトリー					実習 魚里ほか
5	検影法（1）球面度数測定					実習 魚里ほか
6	検影法（2）球・円柱度数測定					実習 魚里ほか
7	角膜形状解析、ケラトメトリー、角膜トポグラフィ					実習 魚里ほか
8	波面収差解析、MTF、PSF					実習 魚里ほか
9	レンズメーター（1）球面レンズと円柱レンズ、眼鏡レンズ					実習 魚里ほか
10	レンズメーター（2）多焦点、累進屈折力レンズ、コンタクトレンズ					実習 魚里ほか
11	調節検査、石原式近点計、アコモドメーター					実習 魚里ほか
12	近距離視力表、ダコモ、トライイリス					実習 魚里ほか
13	コントラスト感度測定と空間周波数特性					実習 魚里ほか
14	矯正練習、コンタクトレンズの基本と装着実習					実習 魚里ほか
15	総括、まとめと復習					実習 魚里ほか
【使用図書】		<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格 他>	
教科書 (必ず購入する書籍)		眼科検査法ハンドブック第4版	小口芳久 他	医学書院	2005・23,100円	
参考書		屈折矯正のプロセスと実際 眼光学の基礎	魚里、清水 西信、魚里 他	医学書院 金原出版	1998・13,650円 1990・8,155円	
その他の資料		配布資料あり				
【評価方法】 小テスト、レポート、定期試験より総合的に判定する。			【履修上の留意点】 実習内容を教科書にて事前に予習しておくこと。機器取り扱いや基本動作は復習にて確認しておくこと。実習前後の機器の点検・整備を行うこと。			